

インドネシア：政策金利を5.75%に据え置き 通貨ルピアの防衛には海外資金の流入を促す優遇策で対応

インドネシア中央銀行（BI）は7月22日、政策金利を5.75%に据え置くことを決定しました。BIは今年5月以降、累計1.00%の利上げを実施して通貨ルピアの防衛姿勢を鮮明にしていただけに、今回も利上げが予想されていました。しかし、BIは海外資金の流入を促す各種インセンティブ策を強化することで、景気への影響を抑えながらルピア相場の安定を図る方針を示しました。BIの動向、市場の反応および今後の見通しについて解説いたします。

➤ 追加利上げ予想の中、政策金利を据え置き

金融政策の概要：

- BIは7月22日に終了した金融政策決定会合で、政策金利である7日物リバースレポ金利を5.75%に据え置くことを決定しました。市場コンセンサスではルピア防衛のために追加利上げを予想していただけに、予想に反する結果になりました。BIは、インフレ圧力は限定的であり、予防的な金融引き締めを一旦停止し、為替ヘッジや非ドル決済の優遇策など資金流入を促す為替関連のインセンティブを導入することでルピアの安定化を図ると説明しています。

インフレ動向：

- 2026年6月のインフレ率は前年同月比+3.34%と前月の+3.08%から小幅に上昇しましたが、BIの目標レンジ（2.5%±1%）内に収まりました。BIは、2026年および2027年を通じてインフレ率が目標レンジ内に収れんするよう、金融政策ミックスの強化および中央・地方政府との連携強化を継続する方針です。

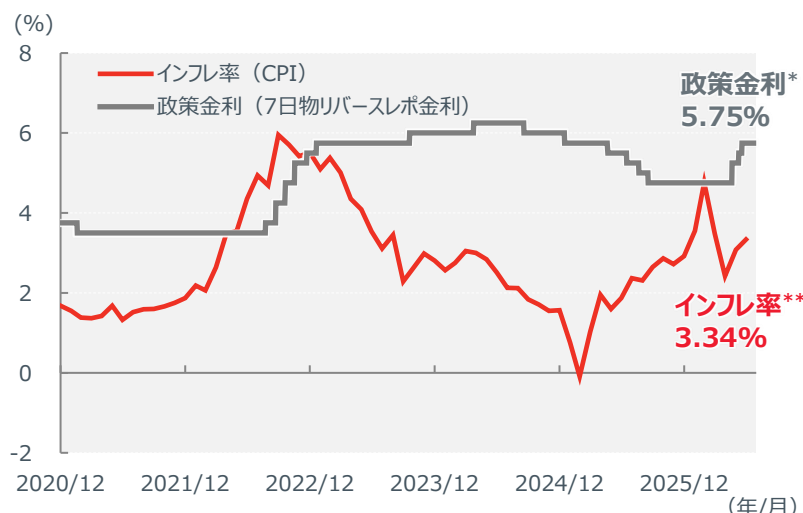
経済成長見通し：

- 国内需要に支えられ、インドネシア経済は引き続き堅調に推移しています。政府による各種景気刺激策が家計消費の伸びに寄与しています。BIは、2026年の実質GDP成長率について、4.9～5.7%のレンジで推移するとの従来の見通しを据え置き、堅調な経済成長を見込んでいます。ただし、イラン情勢悪化を受けて世界経済の不確実性が再び上昇しており、注意が必要です。

政策金利と インフレ率

政策金利*とインフレ率**の推移

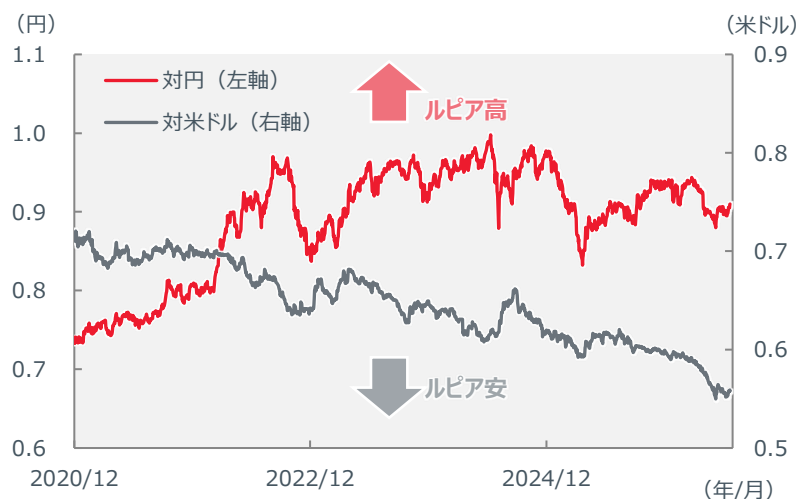
（2020年12月31日～2026年7月22日、日次）



為替

インドネシアルピア（対円、対米ドル）の推移

（2020年12月31日～2026年7月22日、日次）



○この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商） 第379号／加入協会 一般社団法人資産運用業協会

260723(02)

(1/2)

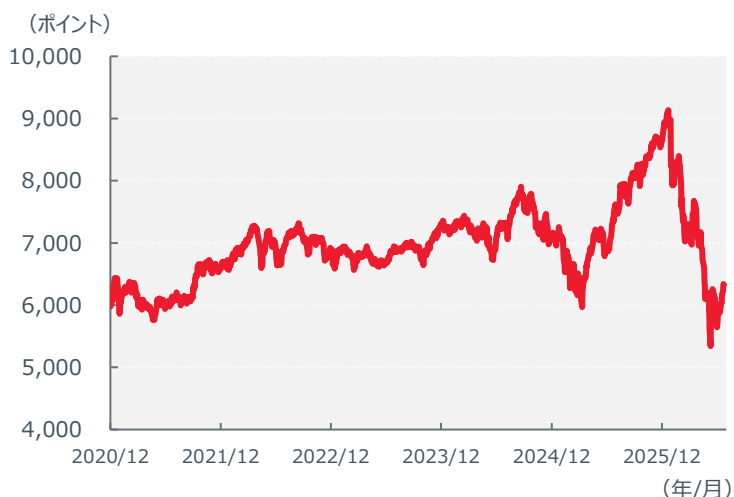
➤ 市場の反応と今後の見通し

- 7月22日、市場は利上げ見送りをやや材料視し、ルピアは対米ドルで前日比0.16%下落、対円では0.05%上昇しました。インドネシア株式市場（ジャカルタ総合指数）は前日比0.09%下落、債券市場では10年国債利回りが前日比+1bps（+0.01%）となりました。
- BIは、今回、政策金利を据え置く一方で、海外からの資金流入を促すインセンティブを設けることによって通貨の下落を抑えつつ、債券市場や株式市場への海外資金の流入を促すことを期待しています。こうした措置が投資家の資金流入を促し、通貨の安定につながるかが注目されます。
- 当社では、追加利上げあるいはこれまでの累積的な引き締めを踏まえて政策金利を据え置いた上で、強いタカ派姿勢を示す判断もありうるとみていました。今回の会合では政策金利は据え置きとなりましたが、重要な点として、BIによる利上げは通貨の安定だけでなく、インドネシア国債市場の安定にも寄与してきたことが挙げられます。為替のボラティリティが低下すれば、外国投資家による資金流出リスクが抑えられ、インドネシア国債の需要を下支えするとともに、国債利回りの大幅な上昇を回避しやすくなります。したがって、利上げは通貨の安定を強化するとともに、債券市場の安定の維持にもつながると考えられます。
- BIは引き続き通貨の安定を重視する姿勢を示していることから、外部環境の悪化によって通貨への下落圧力が再び強まる場合には、追加利上げの可能性もあると考えています。財政やインフレ動向、国際収支を巡る懸念などが一段と強まれば、その効果は限定的となる可能性があるものの、利上げは通貨と債券の双方のボラティリティを抑制する上で、BIが活用できる重要な政策手段の一つとみています。

株式

ジャカルタ総合指数の推移

（2020年12月30日～2026年7月22日、日次）

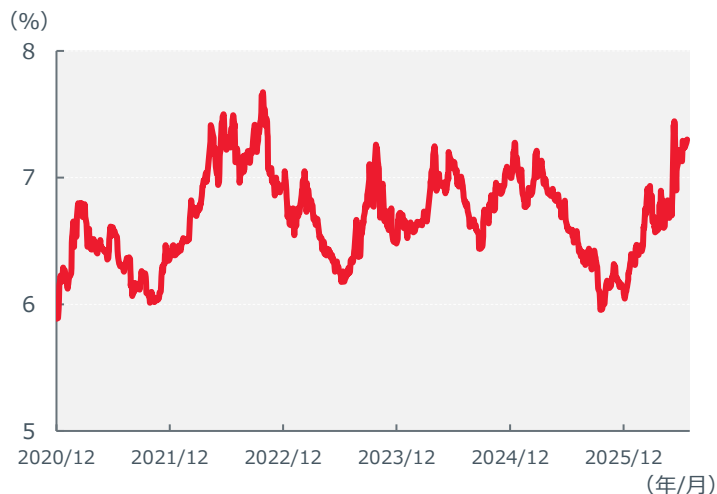


出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
現地通貨ベース、プライスリターン。

債券

インドネシア10年国債利回りの推移

（2020年12月30日～2026年7月22日、日次）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することをご遠慮ください。